

成績概要書

(2004年1月作成)

研究課題：アルストロメリアの品種特性（栄養診断に基づくアルストロメリアの養液土耕栽培）

担当部署：花・野菜技術センター 研究部 花き科

協力分担：

予算区分：補助（国費）

研究期間：2001-2003年度（平成13-15年度）

1. 目的

アルストロメリア新品種の本道における収量性、切り花品質、秋咲き性を調査し、品種選定の資料とする。

2. 方法

1) 試験実施場所：花・野菜技術センター内ガラス温室（ベンチ栽培）

2) 土壌条件：未熟火山性土とピートモスを同容量混合

3) 試験規模：1品種2株、2区制（ただし、7、19、22は1区制）

4) 供試品種

色別	品種名	育成元	色別	品種名	育成元
1 複色系	レベッカ（標準）	V	14 赤系	ポルドー	K
2 黄系	アモール（比較）	V	15	レッドフラッシュ	P
3 白系	グリーンベル	K	16	ブルゴーニュ	P
4	ダンブランチェ	P	17 桃系	テンダネス	P
5	ウルスラ	V	18	98-666	P
6	エレナ	V	19	(EV-2)	T
7	(クリスタル)	V	20 複色系	ブリッタ	V
8 黄系	エルドラド	K	21	サレナ	V
9	サンクス	T	22	(タフィー)	T
10 橙系	マデイラ	K	23	ロゼット	P
11	ベスピオ	K	24	S-1	T
12	トルテ	T	25	パープルシェード	P
13	コシナ	V	26	95-040-1	P

V：パンザンテン社、K：クンスト社、P：プレスマン社、T：東邦ガス

5) 耕種概要

(1) 定植期：2001年6月1日

(2) 栽植様式：ベンチ（幅80cm、長さ340cm、深さ29cm）、条間40cm、株間40cm、2条植え

(3) 施肥量：基肥 堆肥1t/a、硫安0.5kg/a、硫加0.5kg/a、追肥 OKF-1（15-8-17）500倍液、1/株を7-10日毎に施用（年間約4.7-2.5-5.3kg/aに相当）

(4) 加温条件：最低気温12℃に設定

(5) 遮光：夏期は30分積算日射量20Kw/m²以上で遮光（遮光率50%）

(6) 採花開始時期：2001年9月（定植後8月中旬までは摘蕾を行った）

3. 結果の概要

白系では「ウルスラ」が総収量、秋期収量ともに標準品種を上回っており、品質的にも年間の変動が少なく安定していた。「エレナ」は収量的には「レベッカ」並であった。

黄系では「サンクス」が多収で秋期収量も多かった。花が小輪で茎も細く、従来のタイプとは異なっていた。花色は鮮明で条線も少なく、消費ニーズに合っていると思われた。

橙系では「ベスピオ」が非常に多収で、秋期収量も供試品種中最も多かった。しかし切り花品質はやや劣っていた。「マデイラ」も標準品種より多収で、花色が特徴的であった。

赤系、桃系では「ポルドー」の秋期収量のみ標準品種を上回っていたが、他は採花時期が限られ、収量が低かった。

複色系では「サレナ」、「ブリッタ」が多収で秋期収量も多かった。切り花品質では「ブリッタ」が優れており、「サレナ」はやや劣った。「S-1」は総収量は「アモール」並であったが、秋期収量は多かった。

以上のように、アルストロメリア24品種について収量性、品質、秋咲き性等を「レベッカ」を標準として評価した。

表1 品種特性表

色別	品種名	規格品率 (%)	規格品収量 (本/m ² /年)			秋期収量 (本/m ²)	切り花長 (cm)	花梗数 (本)	花梗長 (cm)	莖径 (mm)
			1年目	2年目	平均					
1 標準	レベッカ	88	230	160	195	29	101	4.0	9.9	5.6
2 比較	アモール	95	140	178	159	17	123	4.7	10.0	5.8
3	グリーンハル	77	214	136	175	49	81	3.7	8.6	4.6
4 白	ダンフランチェ	75	70	25	47	21 *	76	3.7	4.2	4.8
5 系	ウルスラ	94	295	232	263	66	102	4.4	8.7	4.7
6	エレナ	90	253	142	198	49	100	4.0	7.4	5.2
7	(クリスタル)	86	287	267	277	74	129	4.6	6.8	6.7
8 黄	エルドラド	86	157	121	139	27	107	3.7	5.8	5.8
9 系	サンクス	93	273	284	278	86	101	5.1	7.5	4.4
10	マデイラ	86	263	236	250	44	100	4.8	8.1	5.7
11 橙	ベスピオ	84	499	339	419	108	85	4.3	4.8	4.8
12 系	トルテ	77	94	92	93	18	75	4.4	7.4	5.3
13	コシナ	94	199	156	177	50	100	4.7	9.3	5.3
14 赤	ポルドー	79	144	73	109	52	81	4.1	7.6	4.5
15 系	レッドフラッシュ	78	41	26	34	10 *	79	3.7	5.4	6.0
16	ブルゴニユ	74	125	50	88	30 *	82	3.9	6.1	5.3
17 桃	テンダネス	71	86	43	64	0 *	88	5.4	5.3	5.7
18 系	98-666	83	132	112	122	23	84	4.5	5.0	5.6
19	(E V - 2)	89	55	35	45	12	77	4.3	8.4	5.1
20	ブリッタ	87	224	216	220	78	94	6.2	8.2	5.7
21 複	サレナ	80	499	210	354	63	88	4.0	7.4	5.0
22	(タフィー)	90	187	63	125	17	121	5.1	11.0	5.0
23 色	ロゼット	69	149	45	97	27 *	73	3.7	6.3	4.9
24	S - 1	73	253	76	165	56	98	3.2	9.9	5.0
25 系	パーブルシェード	63	83	60	72	14 *	70	3.4	3.8	4.4
26	95-040-1	75	119	50	85	10 *	88	4.3	4.1	4.9

* : 2年目の秋期収量は0である。

表2 月別採花傾向

色別	品種名	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
1 標準	レベッカ												
2 比較	アモール												
3	グリーンハル												
4 白	ダンフランチェ												
5	ウルスラ												
6 系	エレナ												
7	(クリスタル)												
8 黄	エルドラド												
9 系	サンクス												
10	マデイラ												
11 橙	ベスピオ												
12 系	トルテ												
13	コシナ												
14 赤	ポルドー												
15 系	レッドフラッシュ												
16	ブルゴニユ												
17 桃	テンダネス												
18 系	98-666												
19	(E V - 2)												
20	ブリッタ												
21 複	サレナ												
22	(タフィー)												
23 色	ロゼット												
24	S - 1												
25 系	パーブルシェード												
26	95-040-1												

株あたり規格品本数 (2カ年平均)

□ 5本未満

■ 5~15本

■ 15本以上

4. 成果の活用面と留意点

本試験はガラス温室内のベンチ栽培での結果であり、ハウス地床栽培より収量性が低く評価されると考えられる。

5. 残された問題点とその対応

秋出荷をねらった栽培条件下における品種特性の把握